

大龍寺 神戸港地方口一里山再度山

●「再度筋町（ふたたびすじちょう）」の由来



大龍寺は再度山（ふたたびさん）の中腹にある真言宗の寺院で、山号を再度山という。本尊の木造菩薩立像（伝如意輪観音<によりんかんのん>）は国指定の重要文化財で、奈良時代の作、高さが1.8mあり、神戸市内最古の仏像といわれている。寺伝によれば、768年に和氣清麻呂（わけのきよまる）が創設し、当初は摩尼山といった。延暦年間（782～805年）に、弘法大師（空海）が唐に渡る際、旅の安全をこの寺の本尊に祈願した。その甲斐あって無事帰国することが出来、大同年間（806～809年）にその報告をするため再び登山し、この寺にやって来たので再度山の名が起こったという。なお、再度谷のことを蛇谷ともいい、これは弘法大師が唐に渡る時、船を守った大蛇が、大師が帰国後再び山に登った際にもこの谷に現われたのでその名が付いたといい、大龍寺という名はそのために付けられたと伝えられている。また、この寺は密教の影響を受けた、この地方を代表する山岳寺院でもある。庫裏の前には、松永貞徳の句碑「秋風にあんまとらせて苔の石」があり、境内から奥の院を経て、さらに山道を入ったところに「弘法大師の梵字（ぼんじ）石」や「亀の石」がある。

さて、再度山のこの寺のあるところ一帯は中世の山城、



国重要文化財木造菩薩立像
著者提供 1994年撮影

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

大龍寺 神戸港地方口一里山再度山

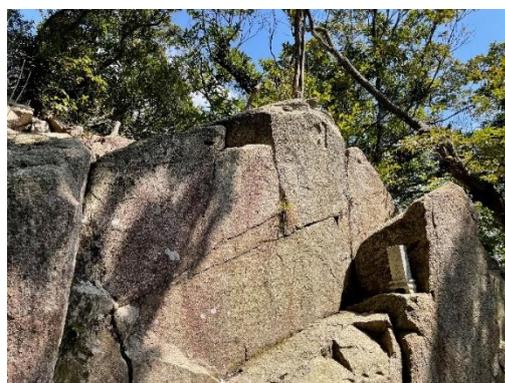
多々部城（たたべじょう）の跡である。建武年間（1334～1338年）に赤松則村が構築したというのが詳細は定かでない。なお、諏訪山の南、今の山本通4丁目付近は旧城ケ口（じょうがぐち）村であり、「城ケ口」という名は、この多々部城の大手になっていたことからその名が付いた。

ところで、この大龍寺の北、修法ケ原（しおがはら）を中心とする再度公園の中に「弘法大師修法之地（しゅうほうのち）」の碑がある。修法ケ原は、昔、大龍寺の僧侶が修法を行なったことからその名が付いたと言われている。

再度山のふもとに再度筋町という町名がつけられているが、ここから再度山へ向かう尾根づたいの道があったことから名付けられた。また、下山手通8丁目には「左 再山道」（ひだり ふたたびやまみち）の道標が残っている。



本堂



亀の石



松永貞徳句碑



弘法大師修法地の碑

● 「神戸港地方（こうべこうじかた）」の由来

「地方」とは町の周辺部のことを意味し、神戸港の周辺部ということから名付けられた。